



120周年記念事業の成功を

～追手門学院のさらなる飛躍に向けて

ご理解、ご協力をお願いいたします～

理事長 大木 令 司

山桜会の会員の皆様方の日頃の追手門学院へのご尽力に深く感謝いたします。

さて、2005年という新しい年度を迎え、120周年記念事業をはじめ追手門学院の現状及び今後の方向について簡単にご報告いたします。

2001年4月に幼稚園の先生方に退職をお願いし、新たな待遇の基で再雇用を行い、加えて新たに幼稚園教育に必要な先生方も採用することとなりました。これは長くお勤めの先生方の勇気ある選択があっはじめて可能となりました。その後、財政が急速に回復し、既にご存知のように昨年9月に新園舎の竣工が可能となりました。新園舎の建設は120周年記念事業の口火を切る重要な事業でしたが、関係者のご協力を獲得して新たな歴史の出発点となりました。

茨木中・高の改革が開始されて5年が経過し、昨年は高校入学定員276名のところ、426名の生徒の入学があり、今年度は再び391名の大量入学となっております。中学、高校で定員割れが起こり、「中・高改革検討委員会」を立ち上げて、教育改革の内容について論議を繰り返したことが思い起こされますが、先生方が給与を下げてまなお学校を維持継続・発展させたいという思いがこのような結果を生んだことと有り難く思っております。ともあれ、茨木キャンパスの桜並木の間の坂道を登る子ども達の姿が澆刺としたものに見えてきました。進学結果が毎年良くなり、その実績が週刊誌等でも紹介されることとなりました。

大手前中・高は個性化と高い学力を2本柱として、昨春改革実施4年目を迎えるに至りましたが、入学者確保に不安が見え出したこともあり、骨格は従来そのままとしても、進学強化に明確にシフトすることで、その結果を待つこととなりました。幸い1年間の軌道修正で、落ち込んでいた内部進学が改善されたことも相俟って、3年後に数値目標とし、その成果を期待していた中学入学者数160名以上を確保することができました。生徒確保に実績が積み重ねられた上で校舎建設を考慮したいところでしたが、現状の施設設備が余りに老朽化しているために、先行して校舎の建て替えを進めることとしました。しかしながら、このための資金が潤沢とは言えないため、先生方にはさらなる給与減をお願いせざるを得なくなりました。予定では、今年度前半で設計内容が確定し、その後工事に入ることとなります。

加えて、新校舎には、120周年記念事業の一環としてつくられる学院施設も予定されております。

小学校は学院の歴史の発祥の地です。2008年に学院120周年を迎えますが、この120周年を迎えるのは他ならぬ小学校です。小学校の募集状況はこれまで極めて順調であると言えます。これは歴史の力であり、小学校の先生方の長年にわたる研鑽の結果であると理解します。しかし、関西の大手私大が小学校開設の予定を明らかにしております。これは小学校の歴史が新しい環境に置かれようとしていることに他なりません。小学校の募集は順調ですが、財務状況は必ずしも万全ではないので、それなりの方法による経営への協力を現場にお願いしてききました。優れた施設設備を維持改善するためにはそれが必要であり、教職員の将来、卒業生の将来、関係者の将来を明るくするための選択である旨をお伝えしてきております。

幼小中高の教育が安定化の方向をたどれば、問題は大学となります。大学の志願者は毎年減少しており、ある学部学科では実質的に受験すれば合格となる状況に近づいてきているとのことです。この状況を乗り越えるために、学部学科の改組をはじめとする施策や、施設設備のリニューアルなどを実施していただいております。

大学の「全入時代」はまさしく目の前となっております。私は学院が輝くためには大学が輝かなければならないと繰り返し申ししてきました。既にいずれの大学でも、改革に全力が傾注されており、とりわけキャリア開発や学生支援に力が注がれております。こうした情勢においては、他の大学を凌駕するような大胆かつ急速な改革なくして生き残りはないことを、今度は大学の先生方が認識していただいて、より一層強力に大学の改革を推進し、そして学院改革の中心に登場していただくことを期待したいと思う次第です。

理事長職に就いて3年以上が経過しましたが、後藤学院長・学長の学内でのリーダーシップもあり、この間学院改革は多少の紆余曲折はあっても順調に推移いたしました。今後は、120周年記念事業を里程標として、さらに学院改革を推進することが必要であると考えております。引き続き、学院改革、120周年記念事業の成功に向けて邁進いたす所存ですので、関係各位のご理解ご協力を心よりお願いいたします次第です。

創立120周年記念事業事務局からのお願い

学校法人追手門学院創立120周年記念事業事務局では、母校の飛躍に向けた記念事業を計画しております。記念事務局は、この事業を成功させるため、校友会山桜会のご協力のもとに、広く卒業生の皆さんを対象とした募金活動を行わせていただくことになりました。皆様のご理解をよろしくお願い申し上げます。記念事務局は、卒業生名簿をもとに、募金名簿データを作成させていただきますが、これらの利用目的は、120周年総合募金の趣意書など募金要項等の送付・提供をさせていただくものです。

*なお、山桜会が、学院に提供する項目のうち、「会員名簿管理規則」第4条1項記載のなかで提供を希望しない項目がある会員は、平成17年6月21日までに文書(FAX・メール可)で山桜会事務局までお申し出下さい。